

第3次総合計画 基本構想 新旧対照表

(新) 第4回審議会（パブリックコメント後）	(旧) 第3回審議会終了時（パブリックコメント前）	備考
基本構想（素案）ver4.4 (R9.4.1 制定) テーマ 「しなやかな変革、それこそ夢と希望を叶える道となる」 現在、日本全体では本格的な人口減少と少子高齢化が急速に進んでいる。本市も例外ではなく、公共施設やインフラの老朽化、地域を支える担い手の不足といった課題を抱えている。 さらに、これらの課題に対応するための市の貯金である「財政調整基金」は減少し、これまでにない厳しい財政状況に置かれている。加えて、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行による社会の変化、国際情勢の不安定化に伴う保護主義的な動きや物価の高騰、気候変動による自然災害の多発化など、私たちの暮らしを取り巻く環境は、かつてなく不確実性を増している。 このような状況の中で、「何もしない」という選択は、将来の子どもたちに大きな負担を残すことにほかならない。今こそ変わることが求められている。ただし、それは急激な変化や、地域の実情に合わない無理な改革を意味するものではない。 「しなやかな変革」とは、海抜0メートルから1,400メートルまでに広がる豊かな自然（ジオパーク）や、これまで育んできた歴史・文化・産業といった西予市ならではの個性を生かしながら、時代や環境の変化に応じて柔軟に、粘り強く、着実に変わり続けていくことである。	基本構想（素案）ver3.0 (R9.4.1 制定) テーマ 「しなやかな変革、それこそ夢と希望を叶える道となる」 現在、日本全体では本格的な人口減少と少子高齢化が急速に進んでいる。本市も例外ではなく、公共施設やインフラの老朽化、地域を支える担い手の不足といった課題を抱えている。 さらに、これらの課題に対応するための市の貯金である「財政調整基金」は減少し、これまでにない厳しい財政状況に置かれている。加えて、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行による社会の変化、国際情勢の不安定化に伴う保護主義的な動きや物価の高騰、気候変動による自然災害の多発化など、私たちの暮らしを取り巻く環境は、かつてなく不確実性を増している。 このような状況の中で、「何もしない」という選択は、将来の子どもたちに大きな負担を残すことにほかならない。今こそ変わることが求められている。ただし、それは急激な変化や、地域の実情に合わない無理な改革を意味するものではない。 「しなやかな変革」とは、海から山まで広がる西予市の個性や歴史、豊かな自然の恵み _____を生かしながら、時代や環境の変化に応じて柔軟に、粘り強く、着実に変わり続けていくことである。	

第3次総合計画 基本構想 新旧対照表

(新) 第4回審議会（パブリックコメント後）	(旧) 第3回審議会終了時（パブリックコメント前）	備考						
<u>ここで目指すのは、人口や施設規模が「縮」小しても、市民一人ひとりの暮らしの「充」実や満足度を高めていく「縮充（しゅくじゅう）」のまちづくりである。これは単に規模の縮小を消極的に受け入れることではない。むやみに人口規模やインフラの「量」を追い求める時代に区切りをつけ、「私たちが目指す真に豊かな暮らし（質）とは何か」を市民と行政が共に考え、身の丈に合わせた持続可能なまちの形へ転換しながら、安心して暮らせる環境や地域とのつながり、生きがいといった暮らしの質を高め、地域の強みを次世代へ引き継いでいく前向きな決意である。</u> <u>この時代の変化に柔軟に対応しながら地域の質を高める「しなやかな変革」と「縮充」の実践によって、市民一人ひとりが安心と生きがいを実感し、人と人とのつながりの中で心豊かに暮らせる西予市を実現する。その積み重ねこそが、直面する困難を乗り越え、持続可能な西予市の実現に向けた、市民の「夢と希望を叶える確かな道」となるのである。</u> <u>1. まちづくり体系と各要素</u> <u>第3次総合計画では、人口減少や厳しい財政状況といった本市が直面する課題を克服し、持続可能な西予市を築くため、「テーマ」「基本理念」「西予まちづくり行動指針」を次のような体系および役割として整理する。</u> <table><tr><th><u>区分</u></th><th><u>役割</u></th><th><u>設定の意図</u></th></tr><tr><td><u>テーマ</u></td><td><u>目指す方向・合言葉（どこを目</u></td><td><u>単に人口や財政の縮小を受け入れるのではなく、西予市ならではの</u></td></tr></table>	<u>区分</u>	<u>役割</u>	<u>設定の意図</u>	<u>テーマ</u>	<u>目指す方向・合言葉（どこを目</u>	<u>単に人口や財政の縮小を受け入れるのではなく、西予市ならではの</u>	<u>この「しなやかな変革」こそが、直面する困難を乗り越え、人口規模が縮小しても質を高め、豊かさを実感できる「縮充（しゅくじゅう）」のまちづくりを進め、持続可能な西予市の実現に向けた</u> <u>「夢と希望を叶える確かな道となる」</u> のである。	
<u>区分</u>	<u>役割</u>	<u>設定の意図</u>						
<u>テーマ</u>	<u>目指す方向・合言葉（どこを目</u>	<u>単に人口や財政の縮小を受け入れるのではなく、西予市ならではの</u>						

第3次総合計画 基本構想 新旧対照表

(新) 第4回審議会（パブリックコメント後）			(旧) 第3回審議会終了時（パブリックコメント前）	備考
	<u>指し、どう乗り越えるか）</u>	<u>個性を生かし柔軟に変革を重ねることで、人口が「縮」小しても暮らしを「充」実させる「縮充」を実現し、未来へ夢と希望をつなぐ強い意図を示すため。</u>		
<u>基本理念</u>	<u>判断基準・精神的土台（迷った時に立ち返る共通の価値観）</u>	<u>行政と市民が対等なまちづくりの当事者（改革者）として、施策や地域活動を選択・判断する際の基準とするため。</u>		
<u>行動指針</u>	<u>実践のための羅針盤（日々の生活や業務で何に取り組むか）</u>	<u>理念（姿勢）を具体的なアクションへ繋げ、行政だけでなく市民・事業者が主体的に動く指針とするため。</u>		
<u>2. 基本理念</u> 第3次総合計画において実現をめざす将来像に向けては、行政だけでなく、市民一人ひとりがまちづくりの当事者として関わり、共に歩んでいく姿勢が不可欠である。私たちは、これまでの歩みの中で培ってきた改革の火を絶やすことなく、以下に掲げる4つの理念を胸に刻みながら、西予市の未来を形づくっていく。 ア 常に危機感 本市が直面する人口減少や厳しい財政状況といった現実を受け止め、常に適度な危機感を共有することが出発点である。しかし、それは決して悲観することではない。危機を「自らの暮らしやまちの未			<u>1. 基本理念</u> 第3次総合計画において実現をめざす将来像に向けては、行政だけでなく、市民一人ひとりがまちづくりの当事者として関わり、共に歩んでいく姿勢が不可欠である。私たちは、これまでの歩みの中で培ってきた改革の火を絶やすことなく、以下に掲げる4つの理念を胸に刻みながら、西予市の未来を形づくっていく。 ア 常に危機感 本市が直面する人口減少や厳しい財政状況といった現実を受け止め、常に適度な危機感を共有することが出発点である。しかし、それは決して悲観することではない。危機を「自らの暮らしやまちの未来	

第3次総合計画 基本構想 新旧対照表

(新) 第4回審議会（パブリックコメント後）	(旧) 第3回審議会終了時（パブリックコメント前）	備考
来をより良くするための変革の機会」として前向きに自分事として捉え、一人ひとりが行動を起こすことで、誰もが安心して生涯暮らせる確かな基盤を築いていく。 イ 常にチャレンジ 縮小する社会においても、ただ守りに入るのではなく、変化を恐れず、むしろ新しい挑戦を楽しむ姿勢が重要である。地域の枠組みや前例にとらわれることなく、将来を見据えた政策や持続可能な行財政運営への転換に挑戦し、新しい時代に適合したまちへの進化をめざす。 ウ 常に一歩先行く 社会の変化は目まぐるしく、昨日までの常識が明日も通用するとは限らない。他市町の先進的な取組も参考にしながら、常に一歩先を意識する広い視野を持つことが大切である。その上で、地域の特性に即した最適な方策を模索する。多様な社会変化にしなやかに対応しつつも軸をぶらさず、先を見据えた柔軟な発想で、効果的な施策を着実に実行していく。 エ 常に市民と共に手を取りあって 行政の力だけでは解決できない課題に対しては、市民、地域づくり組織、企業、各種団体など、あらゆる主体が知恵を出し合い、共創することが不可欠である。地域内外とのネットワークを深め、それぞれが役割と責任を分担しながら、市民とともに地域課題の解決に取り組んでいく。 これらの理念は、判断に迷ったときに立ち返るべき最も大切な精神的土台であり、共通の価値観である。市民と行政が共に改革者とし	をより良くするための変革の機会」として前向きに自分事として捉え、一人ひとりが行動を起こすことで、誰もが安心して生涯暮らせる確かな基盤を築いていく。 イ 常にチャレンジ 縮小する社会においても、ただ守りに入るのではなく、変化を恐れず、むしろ新しい挑戦を楽しむ姿勢が重要である。地域の枠組みや前例にとらわれることなく、将来を見据えた政策や持続可能な行財政運営への転換に挑戦し、新しい時代に適合したまちへの進化をめざす。 ウ 常に一歩先行く 社会の変化は目まぐるしく、昨日までの常識が明日も通用するとは限らない。他市町の先進的な取組も参考にしながら、常に一歩先を意識する広い視野を持つことが大切である。その上で、地域の特性に即した最適な方策を模索する。多様な社会変化にしなやかに対応しつつも軸をぶらさず、先を見据えた柔軟な発想で、効果的な施策を着実に実行していく。 エ 常に市民と共に手を取りあって 行政の力だけでは解決できない課題に対しては、市民、地域づくり組織、企業、各種団体など、あらゆる主体が知恵を出し合い、共創することが不可欠である。地域内外とのネットワークを深め、それぞれが役割と責任を分担しながら、市民とともに地域課題の解決に取り組んでいく。 これらの理念は、判断に迷ったときに立ち返るべき最も大切な精神的土台であり、共通の価値観である。市民と行政が共に改革者とし	

第3次総合計画 基本構想 新旧対照表

(新) 第4回審議会（パブリックコメント後）	(旧) 第3回審議会終了時（パブリックコメント前）	備考
て、西予市ならではの地域の強みを生かした方策を考え、着実に実行し、持続可能な西予市の実現をめざしていく。 <u>3.</u> 西予まちづくり行動指針 私たちが目指すまちの姿に到達するためには、進むべき方向を示す大きな道標が必要である。海・里・山が織りなす多様な風土や、先人たちが守り継いできた知恵を基盤とし、新たな時代に適応するための羅針盤として、ここに「西予まちづくり行動指針」を定める。 一、地域のたからを活用し、 四国西予ジオパークが有する大地の成り立ちや、豊かな農林水産物、伝統ある歴史文化など、本市固有の資源を再発見し、最大限に活用する。これらに新たな技術やアイデアを掛け合わせることで付加価値を高め、郷土への誇りと地域経済の循環を生み出す。 二、市全体で 市民、地域づくり組織、民間企業、教育機関などが垣根を越えて連携し、それぞれの強みをもち寄る「オール西予」の体制を構築する。5つの旧町が互いの個性を認め合い、一体感をもって持続可能なまちづくりを進める。 三、スピード感を持って 人口減少やインフラの老朽化、頻発する自然災害といった課題は待ったなしで進行している。変化の兆しをいち早く捉え、客観的なデータに基づく現状分析のもと、決断を先送りすることなく、市民の命と暮らしを守る施策を迅速に展開する。 四、新しいことにチャレンジすることによって、	て、西予市ならではの地域の強みを生かした方策を考え、着実に実行し、持続可能な西予市の実現をめざしていく。 <u>2.</u> 西予まちづくり行動指針 私たちが目指すまちの姿に到達するためには、進むべき方向を示す大きな道標が必要である。海・里・山が織りなす多様な風土や、先人たちが守り継いできた知恵を基盤とし、新たな時代に適応するための羅針盤として、ここに「西予まちづくり行動指針」を定める。 一、地域のたからを活用し、 四国西予ジオパークが有する大地の成り立ちや、豊かな農林水産物、伝統ある歴史文化など、本市固有の資源を再発見し、最大限に活用する。これらに新たな技術やアイデアを掛け合わせることで付加価値を高め、郷土への誇りと地域経済の循環を生み出す。 二、市全体で 市民、地域づくり組織、民間企業、教育機関などが垣根を越えて連携し、それぞれの強みをもち寄る「オール西予」の体制を構築する。5つの旧町が互いの個性を認め合い、一体感をもって持続可能なまちづくりを進める。 三、スピード感を持って 人口減少やインフラの老朽化、頻発する自然災害といった課題は待ったなしで進行している。変化の兆しをいち早く捉え、客観的なデータに基づく現状分析のもと、決断を先送りすることなく、市民の命と暮らしを守る施策を迅速に展開する。 四、新しいことにチャレンジすることによって、	

第3次総合計画 基本構想 新旧対照表

(新) 第4回審議会（パブリックコメント後）	(旧) 第3回審議会終了時（パブリックコメント前）	備考
既存のやり方に固執せず、デジタル技術（DX）の導入や、空き家・空き店舗の活用、新しい働き方の推進など、時代に即した変革を積極的に取り入れる。失敗から学ぶ柔軟性を持ちながら、西予市ならではの取組を模索する。 五、成長し、 すべての事業において「選択と集中」を徹底し、限られた資源を最適に配分することで、安定した行財政基盤を確立する。同時に、<u>誰もが自分らしく活躍できる地域社会を</u> <u>実現し、人口や規模の拡大</u> <u>ではない、市民一人ひとりの心の豊かさや満足度を高める。</u> 六、しごとを生み、育て、 地域の強みである農林水産業や商工業を時代に合わせて高め、観光やサービス業と連携させることで、稼ぐ力のある産業へと育てる。魅力的な雇用の場を確保し、若者の定着や新たな挑戦につなげる。 七、ひとを呼び込み 豊かな自然や温かいコミュニティ、安心して子育てができる環境の魅力を市内外に発信する。UターンやIターンを促進するとともに、地域と継続的に関わる関係人口を増やし、外部の視点と活力を地域に取り込む。 八、生涯暮らせるまちづくりを実現する。 医療や福祉の充実、コンパクトで安全な社会インフラの再編を進め、誰もが孤立することなく安心して暮らせる環境を整える。一から七までの指針を連動させ、世代を超えて支えながら、持続可能な西予市の実現をめざす。	既存のやり方に固執せず、デジタル技術（DX）の導入や、空き家・空き店舗の活用、新しい働き方の推進など、時代に即した変革を積極的に取り入れる。失敗から学ぶ柔軟性を持ちながら、西予市ならではの取組を模索する。 五、成長し、 すべての事業において「選択と集中」を徹底し、限られた資源を最適に配分することで、安定した行財政基盤を確立する。同時に、<u>性別や年齢に関わらず誰もが自分らしく活躍できる環境を整え、心の豊かさや健康寿命の延伸といった地域の成長を実現する。</u> <u>。</u> 六、しごとを生み、育て、 地域の強みである農林水産業や商工業を時代に合わせて高め、観光やサービス業と連携させることで、稼ぐ力のある産業へと育てる。魅力的な雇用の場を確保し、若者の定着や新たな挑戦につなげる。 七、ひとを呼び込み 豊かな自然や温かいコミュニティ、安心して子育てができる環境の魅力を市内外に発信する。UターンやIターンを促進するとともに、地域と継続的に関わる関係人口を増やし、外部の視点と活力を地域に取り込む。 八、生涯暮らせるまちづくりを実現する。 医療や福祉の充実、コンパクトで安全な社会インフラの再編を進め、誰もが孤立することなく安心して暮らせる環境を整える。一から七までの指針を連動させ、世代を超えて支えながら、持続可能な西予市の実現をめざす。	

第3次総合計画 基本構想 新旧対照表

(新) 第4回審議会（パブリックコメント後）	(旧) 第3回審議会終了時（パブリックコメント前）	備考
Ⅱ 未来の姿（基本構想） 第2次総合計画の成果と課題を振り返りつつ、第3次総合計画では、4つの基本理念を継承し、「西予まちづくり行動指針」を踏まえ、本市の9年後（<u>令和17（2035）年</u>）の姿を、誰もが具体的に思い描けるよう、物語調で示す。 1 西予市全体の未来の姿（物語） <u>令和17（2035）年</u>、このまちでは、海拔0メートルから1,400メートルへと連なる雄大な大地の息吹とともに、新しい朝が始まる。<u>西予の大地と風土が育んだ</u>豊かな農林水産業の現場では、デジタル技術と若い感性が掛け合わさり、自然の恵みを高付加価値へと変える力強い産業への進化が各地で見られる。そこで生まれた利益は地域内で循環し、世代を問わず多様な人材がそれぞれの得意分野を生かして働き、安定した収入を得ている。人口減少という現実を受け入れつつも、市民の顔には活気と余裕が満ちている。 このまちには、西予の風土に調和したコンパクトで美しい生活拠点が整えられている。かつて点在していた空き家や<u>空き店舗は、豊かな自然や美しいまちなみといった地域の面影を残しながら多様な用途へと</u>生まれ変わり、進学で一度このまちを離れた若者や、新しい風を吹き込む移住者が、<u>それぞれの働き方に合わせて活用</u>している。学校では、子どもたちが地域の大人を先生として、ふるさとの歴史や文化を学び、目を輝かせながら未来の夢を語り合っている。	Ⅱ 未来の姿（基本構想） 第2次総合計画の成果と課題を振り返りつつ、第3次総合計画では、4つの基本理念を継承し、「西予まちづくり行動指針」を踏まえ、本市の9年後（2035年_____）の姿を、誰もが具体的に思い描けるよう、物語調で示す。 1 西予市全体の未来の姿（物語） <u>2035年</u>、このまちでは、海拔0メートルから1,400メートルへと連なる雄大な大地の息吹とともに、新しい朝が始まる。<u>四国西予ジオパークが育む</u>豊かな農林水産業の現場では、デジタル技術と若い感性が掛け合わさり、自然の恵みを高付加価値へと変える力強い産業への進化が各地で見られる。そこで生まれた利益は地域内で循環し、世代を問わず多様な人材がそれぞれの得意分野を生かして働き、安定した収入を得ている。人口減少という現実を受け入れつつも、市民の顔には活気と余裕が満ちている。 このまちには、西予の風土に調和したコンパクトで美しい生活拠点が整えられている。かつて点在していた空き家<u>はオフィスやカフェに</u>_____生まれ変わり、進学で一度このまちを離れた若者や、新しい風を吹き込む移住者が、<u>遠隔で都市部の仕事をこなしながら豊かな自然を満喫</u>している。学校では、子どもたちが地域の大人を先生として、ふるさとの歴史や文化を学び、目を輝かせながら未来の夢を語り合っている。	※以降、解説部分は除く

第3次総合計画 基本構想 新旧対照表

(新) 第4回審議会（パブリックコメント後）		(旧) 第3回審議会終了時（パブリックコメント前）	備考
誰もが孤立することなく社会とつながり____、多世代が「地域づくり活動センター」を拠点に、<u>それぞれができることで支え合う温かな</u>コミュニティが根付いている。<u>デジタル技術や、自宅・住み慣れた地域への訪問・巡回診療などの活用によって、誰もが普段の暮らしのなかで安心して必要な医療を受けられる体制や、広域的な連携による医療・福祉ネットワークが、一人ひとりの暮らしを安心して支え_____てい</u>る。 _____将来に過大な負担を残すことなく効率的に維持された安全なインフラと、地域の強い絆に守られたこのまちに、<u>それぞれのライフスタイルに応じた安らぎに満ちた暮らしが営まれている</u>。私たちは、かつての深刻な財政危機や人口減少という荒波を、無駄を省き本当に必要なものを見極める変革によって乗り越えてきた。すべてが解決したわけではないが、足腰の強い行財政経営を土台に、各分野が<u>相互</u>につながり、このまちならではの豊かさを守り続けている。 誰もが「このまちで生涯暮らせる幸せ」を誇りに思う。それこそが、私たちが自らの手で実現した、しなやかで力強い未来である。		<u>高齢者や障がいのある人も孤立することなく、多世代が「地域づくり活動センター」に集い、笑顔で支え合う、家族のような_____コミュニティが根付いている。自宅にいながら受診できるオンライン診療_____や、近隣市町と連携した_____医療・福祉ネットワークが、一人ひとりの暮らしを安心して支え、<u>人口が減っても心豊かに暮らせる、このまちならではの確かな経済圏が確立され</u>てい</u>る。 <u>夕暮れ時、</u>将来に過大な負担を残すことなく効率的に維持された安全なインフラと、地域の強い絆に守られたこのまちに、<u>家族の団らんの声が響く_____</u>。私たちは、かつての深刻な財政危機や人口減少という荒波を、無駄を省き本当に必要なものを見極める変革によって乗り越えてきた。すべてが解決したわけではないが、足腰の強い行財政経営を土台に、各分野が<u>有機的</u>につながり、このまちならではの豊かさを守り続けている。 誰もが「このまちで生涯暮らせる幸せ」を誇りに思う。それこそが、私たちが自らの手で実現した、しなやかで力強い未来である。	
2 人口減少		2 人口減少	
(1) 結婚・出産・子育て		(1) 結婚・出産・子育て	
<u>令和17(2035)年</u>、このまちでは、結婚や出産を望む人が、経済的な不安や環境の壁を感じることなく、自然な形でその希		2035年____、このまちでは、結婚や出産を望む人が、経済的な不安や環境の壁を感じることなく、自然な形でその希	

第3次総合計画 基本構想 新旧対照表

(新) 第4回審議会（パブリックコメント後）	(旧) 第3回審議会終了時（パブリックコメント前）	備考
望を叶えている。安定した雇用が確保され、仕事と家庭を両立できる多様な働き方が定着したことで、若い世代が将来に明るい展望を持てるようになった。懸念されていた地域医療の不足も、オンライン診療の活用や近隣市町との連携によって補われ、安心できる医療体制が整っている。子どもが生まれると、行政だけでなく、地域や職場全体でその成長を温かく見守り、支え合う風土が根付いている。休日の公園や地域づくり活動センターには親子の笑顔があふれ、「西予市で子育てをして本当に良かった」と実感できる温かなコミュニティが広がっている。	望を叶えている。安定した雇用が確保され、仕事と家庭を両立できる多様な働き方が定着したことで、若い世代が将来に明るい展望を持てるようになった。懸念されていた地域医療の不足も、オンライン診療の活用や近隣市町との連携によって補われ、安心できる医療体制が整っている。子どもが生まれると、行政だけでなく、地域や職場全体でその成長を温かく見守り、支え合う風土が根付いている。休日の公園や地域づくり活動センターには親子の笑顔があふれ、「西予市で子育てをして本当に良かった」と実感できる温かなコミュニティが広がっている。	
(2) 社会移動 令和17(2035)年、このまちでは、進学や就職で一度故郷を離れた若者たちが、西予市ならではの豊かな暮らしの<u>価値に気づき</u>、<u>UI</u>ターンしてくることが定着している。仕事と住まいが一体となった環境が整い、デジタル技術を活用して都会の企業で働きながら西予市の自然を満喫するリモートワークなど、多様な生き方が広がっている。また、本市の魅力に惹かれて移住してきた人たちも地域に溶け込み、地元の人たちとともに新しい事業やイベントを立ち上げるなど、活発な交流が生まれている。誰もが温かく迎え入れられる開かれたコミュニティが築かれ、地域の伝統や文化が新しいアイデアと調和しながら、活気と笑顔のあふれる持続可能なまちが形づくられている。	(2) 社会移動 2035年____、このまちでは、進学や就職で一度故郷を離れた若者たちが、西予市ならではの豊かな暮らしに<u>価値を見出し</u>、<u>U</u>ターンしてくることが定着している。仕事と住まいが一体となった環境が整い、デジタル技術を活用して都会の企業で働きながら西予市の自然を満喫するリモートワークなど、多様な生き方が広がっている。また、本市の魅力に惹かれて移住してきた人たちも地域に溶け込み、地元の人たちとともに新しい事業やイベントを立ち上げるなど、活発な交流が生まれている。誰もが温かく迎え入れられる開かれたコミュニティが築かれ、地域の伝統や文化が新しいアイデアと調和しながら、活気と笑顔のあふれる持続可能なまちが形づくられている。	

第3次総合計画 基本構想 新旧対照表

(新) 第4回審議会（パブリックコメント後）	(旧) 第3回審議会終了時（パブリックコメント前）	備考
3 まちデザイン・地域交通 <u>令和17（2035）年</u>、このまちでは、行政と市民が対話を重ねて導き出した、地域にとって持続可能なコンパクトで美しいまちなみが広がっている。歩いて移動できる範囲<u>に買い物や医療、行政サービスなどの生活機能が集まり、各拠点をつなぐ利便性の高い交通ネットワークのもと、車の運転に不安を感じる人も安心して暮らしている。</u>かつて点在していた空き家や空き店舗は、<u>まちの歴史や面影を残しながら、多様な用途へと柔軟に活用されており、</u>それぞれの地域生活の拠点（エリア）に活気と雇用が生まれている。_____ _____ _____ _____ _____	3 まちデザイン・地域交通 2035年_____、このまちでは、行政と市民が対話を重ねて導き出した、地域にとって持続可能なコンパクトで美しいまちなみが広がっている。歩いて移動できる範囲<u>や利便性の高い交通ネットワークのもと、買い物や医療、行政サービスなどの生活機能が集まり、車の運転に不安を感じる人も安心して暮らしている。</u>_____かつて点在していた空き家や空き店舗は、<u>リノベーションにより、カフェや移住者の住まい、新たなビジネスの拠点へと生まれ変わり、</u>それぞれの地域生活の拠点（エリア）に活気と雇用が生まれている。<u>無駄な 公共施設</u>の整理により市の財政も安定し、<u>施設の集約・複合化によって、</u>かつてよりも多世代の交流が生まれ、<u>行政手続きの利便性が向上したことで、そこで生み出された財源が子育てや医療・福祉に活用されることで、「稼ぐ力」と「住みやすさ」が両立した持続可能なまちが実現している。</u>	
4 産業・交流・稼ぐ力の創出 <u>令和17（2035）年</u>、このまちでは、農林水産業や商工業が「誇りを持って働ける魅力ある仕事」として、若者たちに選ばれるようになっている。独自の風土を生かして生産された付加価値の高い<u>産品</u>_____が、西予市ブランドとして全国で取引されている。長年地域を支えてきた地元の中小企業や商店街は、デジタル技術の活用や新たな担い手の参入によって活力を取り戻し、日々の暮らしの利便性と賑わいを守り続けている。_____地元の木材が学校などの公共施設に積極的に活用され、市内の新しい	4 産業・交流・稼ぐ力の創出 2035年_____、このまちでは、農林水産業や商工業が「誇りを持って働ける魅力ある仕事」として、若者たちに選ばれるようになっている。独自の風土を生かして生産された付加価値の高い<u>農産物や水産加工品</u>が、西予市ブランドとして全国で取引されている。長年地域を支えてきた地元の中小企業や商店街は、デジタル技術の活用や新たな担い手の参入によって活力を取り戻し、日々の暮らしの利便性と賑わいを守り続けている。<u>山では、</u>地元の木材が学校などの公共施設に積極的に活用され、市内の新しい	

第3次総合計画 基本構想 新旧対照表

(新) 第4回審議会（パブリックコメント後）	(旧) 第3回審議会終了時（パブリックコメント前）	備考
建物には木の温もりが感じられる。さらに、四国西予ジオパークの美しい景色や豊かな食を求めて国内外から多くの観光客が訪れ、周辺市町とも連携した広域的な周遊ルートを楽しむ中で、市内を巡りながら宿泊や飲食を楽しむ滞在型観光が定着している。市外から資金を呼び込む力（外貨を稼ぐ力）が高まり、その利益が地域内に循環することで、多様で魅力ある雇用が生まれ、誰もが豊かさを実感できる経済基盤が築かれている。	建物には木の温もりが感じられる。さらに、四国西予ジオパークの美しい景色や豊かな食を求めて国内外から多くの観光客が訪れ、周辺市町とも連携した広域的な周遊ルートを楽しむ中で、市内を巡りながら宿泊や飲食を楽しむ滞在型観光が定着している。市外から資金を呼び込む力（外貨を稼ぐ力）が高まり、その利益が地域内に循環することで、多様で魅力ある雇用が生まれ、誰もが豊かさを実感できる経済基盤が築かれている。	
5 医療・保健・福祉・<u>多様性</u>社会 (1) 医療・保健・福祉	5 医療・保健・福祉・<u>共生</u>社会 (1) 医療・保健・福祉	
<u>令和17（2035）年</u>、このまちでは、市民が医療や介護に対する不安を感じることなく、住み慣れた地域で穏やかな毎日を送っている。すべての医療機関が市内に揃っていないくとも、<u>デジタル技術や、自宅・住み慣れた地域での訪問・巡回診療によって、</u>かかりつけ医の診察を受けることができ、必要に応じて近隣市町の高度医療機関へと円滑につながる<u>迅速な救命救急・医療</u>ネットワークが確立されている。市民は日頃から健康への意識が高く、地域の仲間とともに体を動かし、地元の新鮮な食材を楽しみながら、元気に年齢を重ねている。生活に困りごとが生じた場合にも、地域の交流拠点や福祉の専門機関が連携し、<u>孤立させない伴走支援が届く</u>体制が整っている。多世代が互いに気に掛け合い、心身ともに健やかに暮らせる、真の安心が根付いたまちとなっている。	2035年<u> </u>、このまちでは、市民が医療や介護に対する不安を感じることなく、住み慣れた地域で穏やかな毎日を送っている。すべての医療機関が市内に揃っていないくとも、<u>オンライン診療により自宅で</u> <u> </u>かかりつけ医の診察を受けることができ、必要に応じて近隣市町の高度医療機関へと円滑につながる<u> </u> <u> </u>ネットワークが確立されている。市民は日頃から健康への意識が高く、地域の仲間とともに体を動かし、地元の新鮮な食材を楽しみながら、元気に年齢を重ねている。生活に困りごとが生じた場合にも、地域の交流拠点や福祉の専門機関が連携して<u>支援する</u> <u> </u>体制が整っている。多世代が互いに気に掛け合い、心身ともに健やかに暮らせる、真の安心が根付いたまちとなっている。	

第3次総合計画 基本構想 新旧対照表

(新) 第4回審議会（パブリックコメント後）	(旧) 第3回審議会終了時（パブリックコメント前）	備考
(2) 誰もが活躍できる<u>多様性</u>社会の実現 <u>令和17（2035）年</u>、このまちでは、<u>一人ひとりが違った個性や能力を持つ個人として尊重され、誰もが希望を持って自分らしく生きることができ、お互いに健やかに頼り、頼られながら、誰もが能力を発揮し参画・活躍できる多様性社会が実現している。高齢者は長年培ってきた知恵や経験を生かして無理なく活動している。市民は互いの背景を尊重し合い、個性や多様な生き方への理解が深く浸透し、誰もが不当な偏見や差別を受</u> <u>けることなく、自ら望む生き方を選択できている。</u> <u>地域には、当事者と周囲</u> _____ <u>を温かくつなぐ『とき（仲介役）』のような、市民同士の自発的な助け合い（共助）</u> _____ <u>が日常的に行われている。行政、民間、地域が一体となった切れ目のない支援</u> _____ <u>のもと、誰もが孤立することなく、西予市に暮らす喜び</u> _____ <u>を分かち合っている。</u> 6 危機管理 <u>令和17（2035）年</u>、このまちでは、いつ起こるか分からない災害への備えが、市民の日常生活の中に自然と溶け込んでいる。スマートフォンや防災ラジオを通じて危険を知らせる情報が瞬時に届き、一人ひとりが迷うことなく適切な避難行動をとることができる。地域では、いざという時に誰が誰を助けるのかという役割分担が明確になっており、定期的な訓練を通じて「共助」の絆	(2) 誰もが活躍できる<u>共生</u>社会の実現 2035年 _____、このまちでは、 _____ _____ 社会が実現している。高齢者は<u>長年の知識や</u> _____ <u>経験を生かし、地域の見守り活動や伝統文化の継承だけでなく、農業をはじめとする地域の産業現場において、無理のない範囲で多様な担い手として活躍し、生き生きと毎日を送っている。障がいのある人も職場で能力を発揮し、自信を持って経済的にも自立した生活を送っている。</u> <u>地域の中には、当事者と企業や住民を温かくつなぐ『とき（仲介役）』の役割を果たす個人や組織が育っており、多様な価値観の相互理解と細やかなマッチングが日常的に行われている。行政と民間、地域が一体となった切れ目のない支援体制のもと、誰もが孤立することなく、西予市に暮らす喜びと安心感</u> _____ <u>を分かち合っている。</u> 6 危機管理 2035年 _____、このまちでは、いつ起こるか分からない災害への備えが、市民の日常生活の中に自然と溶け込んでいる。スマートフォンや防災ラジオを通じて危険を知らせる情報が瞬時に届き、一人ひとりが迷うことなく適切な避難行動をとることができる。地域では、いざという時に誰が誰を助けるのかという役割分担が明確になっており、定期的な訓練を通じて「共助」の絆	

第3次総合計画 基本構想 新旧対照表

(新)第４回審議会（パブリックコメント後）	(旧)第３回審議会終了時（パブリックコメント前）	備考
が確かなものとなっている。また、コンパクトに再編・強化された道路や橋により、災害時の孤立リスクは最小限に抑えられている。消防団もデジタル機器を活用し、効率的かつ安全に活動している。<u>日々の予防活動と、広大な市域でも迅速に機能する火災・救急体制の整備によって、市民の命と暮らしが守られ、</u>さらに、交通事故や犯罪を防ぐための見守りが地域全体に広がり、市民が安心して暮らせる強靱なまちが実現している。	が確かなものとなっている。また、コンパクトに再編・強化された道路や橋により、災害時の孤立リスクは最小限に抑えられている。消防団もデジタル機器を活用し、効率的かつ安全に活動している。<u> </u>さらに、交通事故や犯罪を防ぐための見守りが地域全体に広がり、市民が安心して暮らせる強靱なまちが実現している。	
７　地域コミュニティ <u>令和１7（２０３５）年</u>、このまちでは、<u>誰もが自分らしく</u> <u> </u>生き生きと地域づくりに参加している。<u>各地域の拠点となる</u>地域づくり活動センターは、住民の笑顔とアイデアが交わる活気ある拠点となり、行事や組織のあり方も見直され、現在の人口規模でも無理なく持続できる地域主導の活動が定着している。地域の困りごとは住民同士の話し合いにより柔軟に解決されている。伝統的な祭りや文化行事は、若い世代や地域外の協力者など新たな担い手を得て、時代に合った形で受け継がれている。スポーツや生涯学習を通じて世代を超えた交流が日常的に行われ、すべての人の人権が尊重されている。「何かあればお互い様」という温かい意識がまち全体に広がり、誰もがこの地域に暮らす喜びと<u>安心</u>を感じている。	７　地域コミュニティ ２０３５年<u> </u>、このまちでは、<u>老若男女、そして新しく移住してきた人々も含め、誰もが</u>生き生きと地域づくりに参加している。<u>市内２７の </u>地域づくり活動センターは、住民の笑顔とアイデアが交わる活気ある拠点となり、行事や組織のあり方も見直され、現在の人口規模でも無理なく持続できる地域主導の活動が定着している。地域の困りごとは住民同士の話し合いにより柔軟に解決されている。伝統的な祭りや文化行事は、若い世代や地域外の協力者など新たな担い手を得て、時代に合った形で受け継がれている。スポーツや生涯学習を通じて世代を超えた交流が日常的に行われ、すべての人の人権が尊重されている。「何かあればお互い様」という温かい意識がまち全体に広がり、誰もがこの地域に暮らす喜びと<u>誇り</u>を感じている。	

第3次総合計画 基本構想 新旧対照表

(新) 第4回審議会（パブリックコメント後）	(旧) 第3回審議会終了時（パブリックコメント前）	備考
8 教育・人材育成 令和17(2035)年、このまちでは、まち全体が子どもたちを育む大きな学校となっている。少子化に伴う学校の適正規模化が進んだことで、子どもたちは多様な友人たちと切磋琢磨し、社会性を育む最適な学習環境を享受している。さらに、四国西予ジオパークの豊かな自然や歴史を題材にした学びが定着し、農家や職人、起業家など地域で活躍する大人たちが先生となって、子どもたちの好奇心を育てている。市内の高校は独自の魅力あるカリキュラムにより県内外から若者が集まり、活気に満ちている。また、大人たちも地域づくり活動センターなどを拠点に、デジタル技術や新たな知識を学び、地域活動や仕事に生かしている。世代を問わず学び続ける文化が根付き、その姿は子どもたちのシビックプライド（郷土愛）を自然に育てている。このまちで育った若者たちはふるさとに強い誇りを持ち、一度市外へ出た後も、身につけたスキルを生かして再び西予市に戻り、新しい時代を担うリーダーとして活躍している。 9 社会インフラ・DX・環境衛生 令和17(2035)年、このまちでは、デジタル技術が暮らしに溶け込み、安全で快適な生活環境が保たれている。迅速な情報伝達が進む一方で、	8 教育・人材育成 2035年、このまちでは、まち全体が子どもたちを育む大きな学校となっている。少子化に伴う学校の適正規模化が進んだことで、子どもたちは多様な友人たちと切磋琢磨し、社会性を育む最適な学習環境を享受している。さらに、四国西予ジオパークの豊かな自然や歴史を題材にした学びが定着し、農家や職人、起業家など地域で活躍する大人たちが先生となって、子どもたちの好奇心を育てている。市内の高校は独自の魅力あるカリキュラムにより県内外から若者が集まり、活気に満ちている。また、大人たちも地域づくり活動センターなどを拠点に、デジタル技術や新たな知識を学び、地域の課題解決やビジネスに生かしている。 このまちで育った若者たちはふるさとに強い誇りを持ち、一度市外へ出た後も、身につけたスキルを生かして再び西予市に戻り、新しい時代を担うリーダーとして活躍している。 9 社会インフラ・DX・環境衛生 2035年、このまちでは、デジタル技術が市民の暮らしに溶け込み、安全で快適な生活環境が保たれている。スマートフォンやタブレットを活用した迅速な情報伝達が進む一方で、機械の操作に不慣れな高齢者等に対しては、地域づくり活動センターやご近所同士のコミュニティが『情報の仲介役（とぎ）』と	

第3次総合計画 基本構想 新旧対照表

(新) 第4回審議会（パブリックコメント後）	(旧) 第3回審議会終了時（パブリックコメント前）	備考
<u>操作に不慣れな人には、ご近所や地域づくり活動センターの人々が自然と寄り添っている。デジタルと人の温もりが調和し、</u> <u>情報格差による不便はない</u> <u>。道路や水道などの</u>インフラは、<u>段階的に導入される技術や</u>広域<u>連携により、将来に負担を残さず</u>適正な規模へと最適化されている。<u>また、</u> <u>ごみの減量や自然</u>エネルギーの活用が日常に定着する中、<u>日常的に自然と深く関わる暮らしそのものが、市民の健康や子どもたちの育ちを支える豊かな土台となっている。四国西予ジオパークの活動を通じて価値が再認識された美しい自然環境と、</u>質の高い生活基盤が調和した持続可能な社会が実現している。	<u>して優しくサポートする仕組みが定着している。デジタルと人の温もりが調和することで、情報格差による不便は解消されている。道路や水道、ごみ処理といったインフラは、最新のテクノロジーを活用した効率的な管理や</u>広域的な連携により、<u>人口規模に見合った適正な規模へと最適化されている。その結果、将来に過大な負担を残すことなく、効率的に維持されている。また、豊かな自然を次世代に引き継ぐため、</u>ごみの減量や再生可能エネルギーの活用が市民の日常として定着している。 <u>、便利で</u>質の高い生活基盤が調和した持続可能な社会が実現している。	
10 行財政 <u>令和17（2035）年、</u>このまちでは、かつての深刻な財政危機を市民と行政の協働によって乗り越え、安定した行財政基盤が確立されている。公共施設は地域の身の丈に合わせて再編・複合化され、利用しやすさと維持管理コストの縮減が両立している。市役所の手続きの多くはスマートフォンなどデジタル上でいつでも簡単に行えるようになり、行政のデジタル化によって生まれた余力が、市民の困りごとに寄り添う対人サービスへと振り向けられている。また、市の魅力を生かした自主財源の確保も進み、無駄を徹底して省きながら、必要な医療・福祉や教育への投資が着実に	10 行財政 2035年<u>、</u>このまちでは、かつての深刻な財政危機を市民と行政の協働によって乗り越え、安定した行財政基盤が確立されている。公共施設は地域の身の丈に合わせて再編・複合化され、利用しやすさと維持管理コストの縮減が両立している。市役所の手続きの多くはスマートフォンなどデジタル上でいつでも簡単に行えるようになり、行政のデジタル化によって生まれた余力が、市民の困りごとに寄り添う対人サービスへと振り向けられている。また、市の魅力を生かした自主財源の確保も進み、無駄を徹底して省きながら、必要な医療・福祉や教育への投資が着実に	

第3次総合計画 基本構想 新旧対照表

(新) 第4回審議会（パブリックコメント後）	(旧) 第3回審議会終了時（パブリックコメント前）	備考
行われている。こうした取組により、市民から信頼される自治体経営が実現している。		